



だより



R8.7.16 Vol.16

オヤジですが何か…

「僕が若い頃はな…」どうやら、これオヤジ特有の言葉らしいです。そして場合によってはハラスメントになるんだとか。もう今は何でもかんでもハラスメントです。

弱者救済だったはずの取組がいつの間にかオヤジ狩り?になっている気がします。「嫌な思いをした＝ハラスメント」短絡的過ぎませんか?ならきちんと意思疎通しようって話です。弱者救済はもちろん大切ですが、行き過ぎると社会そのものが息苦しくなる。

「地獄への道は善意で敷き詰められている」イギリスにそんなことわざがあります。善意が暴走し、いつの間にかまた別の誰かを追いつめているんじゃないか?

そう思います。すれ違いや誤解を解くために人は対話ができるんじゃないですかね?

そんなことを思うあちこち身体の痛いオヤジです。



脇役の言葉

名バイプレーヤーの金田明夫さんがこんなことを言っていました。「俳優って不思議な仕事で、100mを10秒で走れなくてもいい。たとえ20秒かかっても、必死に走れば人の心を動かせる。年齢は関係ない。」とても示唆に富む言葉だと感じます。人との関わりの中で一生懸命であること、誠実であることの大切さを教えてくれているように感じます。

始めは一言だったセリフが二言になり、ワンシーンになり、役が付き…そんな人生を歩んできた方の言葉ってなんかグッと来るんですよね。効率や手軽さが求められがちな今だからこそ、こうした生き方が輝いて見えるのかもしれない。

四方山話松蔭 ver. 其の十六(夏休みの前に)

幼児のすることを見ていると、いろいろな発見があります。だいたい前になりますが、キャンプに行って一人時間を満喫していると近くで小さな子供を連れた方もキャンプをされていました。幼子が近くにある砂や小石をつかんで投げ、つかんでは投げを繰り返していました。それからまたしばらくすると、つかんだ砂を真上にあげ、そこで手を離すことを繰り返し、下に落ちていく砂や小石を見ていました。近くの草に触り、木の実か何かを見つけたのでしょうか。おっかなびっくりで触ろうとしたり、家族にアピールしたり…前にも触れましたが、子供はその繰り返しの中で、自然の法則やものの量感や質感を会得しています。そして外での遊びは砂遊びや泥団子作りに、室内での遊びは、例えばプラレールで線路をつなげたり、お人形で遊んだりに発展し、より細かな作業のできる神経系が発達(巧緻性の向上)していくのだと思います。それからもっと歳を重ねていくと、プラモデルやジオラマ作り、DIY、料理や手芸等、大人でもずっと趣味にしていけるようなより高度なものに変化していくのかなと思います。(もちろん変化の道筋はたくさんあります。)子供の遊びの時間は、その子が自分の体をうまく使うようになっていくために不可欠のものだと幼な子を見ながら感じます。

小学生という段階はその発達の真ただ中にいます。(むしろ加速度的に発達していく時期です。)18日からの夏休み、たくさんの自由時間が待っていますがゲーム漬けにならないことを祈るばかり。ゲームをやりこんだことで向上する能力は、日々の生活や学びに必要な巧緻性とは全くの別物です。

火起こしにチャレンジした話を讀んだ教え子に「先生! いい歳して火起こし? 何時間も? ウケるんですけど! …でも一緒にやりたい。爆笑」とからかわれましたが、子供を自然の中に放り込む機会があればどんどん放り込んでください。放り込めなくても、「今日は1日の食事、自分で用意してみる?」なんて時間でもいいと思います。自分の体と頭をしっかりと使う夏休みにしてほしいです。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。